

以下の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

6章 性・生殖に関する生理 7節 性周期 1項 月経周期
p. 153 本文 下から8行目

【誤】 卵巣に存在する卵胞は、排卵の有無にかかわらず自然に閉鎖してその数を減らしていく。胎児の卵胞には約700万個の卵胞があるが、出生時にはすでに約80万個まで減少しており、初経時には約30万個、40歳では約1万個となり、ついには枯渇して排卵する卵胞がなくなり、閉経に至る。日本における平均閉経年齢は50.5歳と報告されており、46歳では10%、56歳では90%の女性が閉経している。一般に40代では排卵が規則的ではなくなり、月経周期が不順となり、月経以外に不正性器出血を来すなどの変化が生じる（**周閉経期**）。また、突然顔面が紅潮して暑くなり発汗する**ホットフラッシュ**などの自律神経の失調症状、いわゆる**更年期障害**と呼ばれる症状を示す。

【正】 卵巣に存在する卵胞は、排卵の有無にかかわらず自然に閉鎖してその数を減らしていく。胎児の卵胞には約700万個の卵胞があるが、出生時にはすでに約80万～200万個まで減少しており、初経時には約30万個、40歳では約1万個となり、ついには枯渇して排卵する卵胞がなくなり、閉経に至る。日本における平均閉経年齢は50.5歳と報告されており、46歳では10%、56歳では90%の女性が閉経している。一般に40代では排卵が規則的ではなくなり、月経周期が不順となり、月経以外に不正性器出血を来すなどの変化が生じる（**周閉経期**）。また、突然顔面が紅潮して暑くなり発汗する**ホットフラッシュ**などの自律神経の失調症状、いわゆる**更年期障害**と呼ばれる症状を示す。

7章 性・生殖における健康問題と看護 3節 女性生殖器の腫瘍
p. 188 5項 子宮体癌（子宮内膜癌）

【誤】 **5 子宮体癌（子宮内膜癌）**

子宮体癌は子宮内膜から発生する悪性新生物であり、病理学的には**類内膜腺癌**が80～90%、**漿液性腺癌**が5～10%、**明細胞腺癌**が5%程度である。**類内膜腺癌**はGrade1（高分化）～3（低分化）に分類される。

【正】 **5 子宮体癌（子宮内膜癌）**

子宮体癌は子宮内膜から発生する悪性新生物であり、病理学的には**類内膜腺癌**が80～90%、**漿液性癌**が5～10%、**明細胞癌**が5%程度である。**類内膜癌**はGrade1（高分化）～3（低分化）に分類される。

【誤】

1 妊孕性と不妊

1 妊孕性とは

女性の晩婚化と挙児希望年齢の高年齢化などの要因によって、加齢に関連した不妊症が増加している。加齢による^{にんよう}妊孕性*の低下は、加齢に伴う卵子数の減少に加え、卵子の質の低下が主な原因であるといわれる（図8-1）。ヒトの卵巣内の卵子は妊娠4カ月目の胎児で約700万個存在するが、出生時には200万個まで減少し、さらに年齢とともに減少を続け、50歳ごろには1,000個以下になって閉経に至る。したがって、ある程度の卵子数が残存していても、妊孕性の低下は起り始めていると認識することが必要である。また、卵子の質の低下は、妊娠率の低下に加え、流産率の上昇にもつながる。

【正】

1 妊孕性と不妊

1 妊孕性とは

女性の晩婚化と挙児希望年齢の高年齢化などの要因によって、加齢に関連した不妊症が増加している。加齢による^{にんよう}妊孕性*の低下は、加齢に伴う卵子数の減少に加え、卵子の質の低下が主な原因であるといわれる（図8-1）。ヒトの卵巣内の卵子は妊娠4カ月目の胎児で約700万個存在するが、出生時には約80万～200万個まで減少し、さらに年齢とともに減少を続け、50歳ごろには1,000個以下になって閉経に至る。したがって、ある程度の卵子数が残存していても、妊孕性の低下は起り始めていると認識することが必要である。また、卵子の質の低下は、妊娠率の低下に加え、流産率の上昇にもつながる。